

【鼎談】伊藤園のバリューチェーンの特徴と3Rへの取り組み

鼎談の概要

2015年11月9日、伊藤園（以下、当社）の環境経営について環境、企業価値向上、消費者の視点などから幅広く意見交換を行う鼎談（ダイアログ）を開催しました。その内容は、環境新聞の「3R推進月間特集」において、当社の3R関連の主な取り組みとして紹介されました。

有識者一覧



後藤 敏彦 氏

特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム
代表理事



河口 真理子 氏

株式会社大和総研
調査本部主席研究員



笹谷 秀光

常務執行役員
CSR推進部長

伊藤園参加者

伊藤園からの説明

【常務執行役員笹谷より説明】

伊藤園のCSRとバリューチェーンの特徴を記載した「伊藤園レポート2015」

- 今年度は従来のCSRに加えてさまざまなパートナーとのWIN-WIN関係（CSV）構築のため、皆様に広く理解していただけるようコーポレートブックとCSRレポートを統合し「統合報告」として作成しました。当社の強みや考え方を重点事項（マテリアリティ）に絞り、ストーリーで語る形にしてスリムで読みやすくなるよう努めました。
- 内容は当社のビジネスモデルである「茶畑から製品まで」の一貫体制（バリューチェーン）について解説し、財務・非財務の情報を総合的に紹介しました。当社はバリューチェーンを通じて関係者との連携により新たな価値を生み出しています。
- また、IR上の観点からも経営陣が語る誌面を多く設け、ブランドストーリーや世界への展開についても紹介しました。
- このような整理により、当社のさまざまな企業価値が生まれてきた過程をストーリー化してアピールする形を目指しました。



伊藤園レポート2015

【鼎談】伊藤園のバリューチェーンの特徴と3Rへの取り組み

当社のバリューチェーン

| 調達 | 製造・物流 | 商品開発 | 営業・販売 | マーケティング |
|--|---|---|---|---|
| <p>高い原料調達力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高品質で安定した、規模優位性のある原料調達力 ● 国産原料の消費拡大と緑茶市場の活性化  <p>茶産地育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 茶葉の品質向上・原料の安定調達 ○ コスト削減 ○ IT活用による摘採時期の最適化 ● 食料自給率向上、耕作放棄地対策 ● 地域活性化・環境保全型農業の推進 <p>〈茶産地育成事業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フード・アクション・ニッポンアワード (研究開発・新技術部門最優秀賞) ▶ 日経ソーシャルイニシアチブ大賞 (企業部門賞) | <p>ファブレス方式</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 設備投資のコスト削減、需要に即した生産調整 ● パッカー：受注による安定的な経営 <p>NSシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高品質による製品差別化、コスト削減 ● 省資源・省エネルギー製品の普及  <p>茶殻リサイクルシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 省資源・リサイクルによるコスト削減 ● 環境配慮、新たな生活様式への発展 <p>品質管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ブランド価値向上 ● 消費者の安全・安心 <p>生産物流ブロック体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物流費の削減、迅速な製品供給 ● 環境配慮、在庫・物流管理の分散化 (災害対策) <p>〈茶殻リサイクルシステム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 (農林水産大臣賞) ほか <p>〈NSシステム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 資源循環技術・システム表彰 (経済産業省 産業技術環境局長賞) ほか | <p>商品開発力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高付加価値製品による製品差別化 ● 幅広いお客様への健康価値の提供  <p>幅広い製品ラインアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 飲料市場の拡大、大手流通との商談や消費者ニーズへの柔軟な対応 ● 多様なニーズに応じた飲料の提供 <p>特許戦略・商標戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他社との製品差別化、ブランド力の向上、競争力の確保 ● 模倣品対策への貢献 <p>〈アルミレス紙バック飲料容器〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 (農林水産大臣賞) ほか <p>〈容器包装簡素化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 簡素化大賞 (優秀賞) | <p>ルートセールス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規顧客の獲得、既存顧客の強化 ● 見込み客管理と顧客満足度の向上 ● 地域密着型営業による全国津々浦々への商品供給  <p>小売店</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規顧客の獲得、既存顧客の強化 ● 見込み客管理と顧客満足度の向上 ● お茶文化と伝統の保護継承 <p>〈お〜いお茶新俳句大賞〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ PRアワードグランプリ (マーケティング・コミュニケーション部門 最優秀賞) ほか <p>〈贈答品包装〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日本パッケージングコンテスト (贈答品包装部門賞) | <p>マーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トータルマーケティングによる売上・シェア拡大、製品差別化、ブランドの育成強化 ● 消費者ニーズに応じた商品の提供 <p>ティーテイスター制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緑茶市場の活性化、お茶の専門集団による営業・販売力の強化 ● 日本の伝統・お茶文化の普及継承 <p>お〜いお茶新俳句大賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 付加価値による売上・シェア拡大 ● 日本の伝統文化の振興、学校教育への貢献 <p>「お茶で日本を美しく。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 付加価値による売上・シェア拡大 ● 環境にやさしい生活の促進、環境保全活動の促進  <p>〈「お茶で日本を美しく。」〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ PRアワードグランプリ <p>〈ルイゴスティー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ FOOD&E 美食女子グランプリ (金賞) ほか |



「世界のティーカンパニー」へ

【鼎談】伊藤園のバリューチェーンの特徴と3Rへの取り組み

有識者のご意見

【後藤 敏彦 氏（特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム代表理事）】

- 伊藤園のCSRの取り組みはトップランナーの位置にあると思いますが、CSRは永久チャレンジが必要です。今後も先進的な取り組みを続けてほしいですね。また、国連で「持続可能な開発目標」（SDGs）が採択されました。伊藤園の経営活動はSDGsの3番目の目標「健康的な生活の確保」にかなうものです。今後は文化と健康への取り組みについてもっと深め、こうした世界的課題に積極的に取り組んでいる姿勢をアピールされたいと思います。また、非財務のESGへの取り組みにも留意し、企業価値やCO₂削減など環境対策の費用対効果等をよりいっそう定量的に示せたいと思います。

【河口 真理子 氏（株式会社大和総研 調査本部主席研究員）】

- 「伊藤園レポート2015」も従来に比べて読みやすくなりましたが、今後はターゲットを意識した開示の工夫があるとよいのではないのでしょうか。例えば投資家に向けては主要項目について定量化を進めていますが、可能な部分は金銭評価もできるとよいと思います。また、消費者には専門用語ではなく一言で分かるような訴求を工夫するといっそう伝わるとと思います。

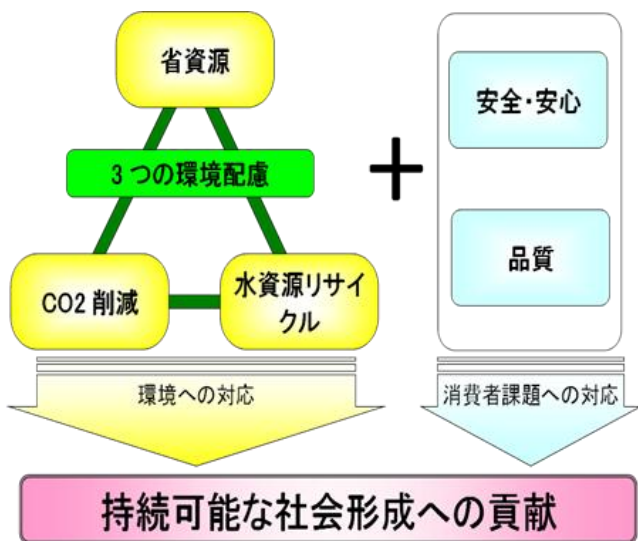


【鼎談】伊藤園のバリューチェーンの特徴と3Rへの取り組み

伊藤園からの説明

【常務執行役員笹谷より説明】 3Rの取り組み

- 3Rの観点から最も重要な取り組みの一つが「NSシステム」(Non Sterilant システム)です。薬剤を使用せずにボトルにお茶を充填する方法を、他社と協働で開発・実用化したものです。薬剤を洗い流すための水、洗い流した水の排水処理の必要がなくなり、品質も向上、香りもよくなりました。また、これによりPETボトルの軽量化も実現しました。このシステム導入により、省資源とCO₂削減、リサイクルの3つの環境配慮とともに安全・安心と品質のさらなる向上という消費者課題にも応えることができました。
- 製造工程で排出される茶殻について、伊藤園では独自の「茶殻リサイクル・システム」を開発しました。茶殻の一部を紙製品・建材・樹脂などに配合し、協力企業と協働でさまざまな製品を製造販売する取り組みも進めています。
- このほか、PETボトル以外の取り組みとして、アルミレス紙パック飲料容器を開発して商品化しました。通常、野菜飲料の紙容器は常温で長期保存を可能とするために、アルミ箔を使用しています。しかし、これではアルミ箔と紙を分離するのに特殊な処理が必要となることなどから、リサイクルが十分に進んでいません。そこで伊藤園は協力企業と協働で、アルミ箔の代わりに環境配慮型フィルムを採用した「アルミレス紙パック飲料容器 (ECO容器)」を業界で初めて開発しました。常温で長期保存が可能でありながら、牛乳パックと同じリサイクルを可能としたのです。環境配慮に優れた飲料容器として、今後も商品の種類や販売エリアを拡大していきます。これらの取り組みは各方面からの受賞という外部評価につながっています。



NSシステムによる持続可能な社会形成への貢献

キャップ
従来比
約13%軽量化
重量：2.6g

ボトル
従来比
約30%軽量化
500ml PETボトル (換算)
重量：19g

ラベル
従来比
約40～50%
薄膜化
厚さ：20マイクロメートル

NSシステムによる容器包装の軽量化

【鼎談】伊藤園のバリューチェーンの特徴と3Rへの取り組み

有識者のご意見

【後藤 敏彦 氏（特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム代表理事）】

- 伊藤園は「NSシステム」を通じて省資源とCO₂削減、リサイクルの3つの環境配慮を実現するなど、PETボトルについてはリサイクル・システムをほぼ完成形にまで作り上げる、とても優れた取り組みを進められていると思います。さらに「茶殻リサイクル・システム」、「アルミレス紙パック飲料容器」など、独自の先進的取り組みを進めていることも高く評価できます。
- 今、世界では国連のSDGsの動きなどあり、特に欧州などでは資源効率化に向けた取り組みが盛んになっています。ぜひ、3Rのトップランナー企業の一つとして世界をリードする先進的取り組みを、これからも進めてほしいと思います。

【河口 真理子 氏（株式会社大和総研調査本部主席研究員）】

- ここ数年、環境配慮と言えばCO₂削減対策と捉える「にわか環境派」が増えてきているように思います。私は環境配慮の基本は「資源循環」と考えているので、その風潮には疑問を感じています。
- 伊藤園の取り組みは3Rの分野でとても先進的・意欲的な取り組みを進められていると評価しています。ぜひ今の取り組みをさらに肉付けするなどして拡大し、広めていけたらよいと思います。
- 日本の3R技術は世界に伝えるべきことがたくさんあると思うので、ぜひ世界に向けて広くアピールしてほしいと思います。



後藤 敏彦 氏

特定非営利活動法人サ
ステナビリティ日本フォーラム
代表理事

河口 真理子 氏

株式会社大和総研
調査本部主席研究員